



人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた

震災資料室

発行

〒653 神戸市長田区北町3-4-3
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第38号

もくじ

- 1 復興5年、折り返し点に佇つ
- 2 アスタギャラリー
- 3 来場者アンケートより
- 4 手紙等紹介 他

復興5年、 折り返し点に佇つ

神戸市は一七日午前五時四六分に「震度七」の地震が発生した想定で防災伝達訓練を行った。気温は六度と温かい朝だ。今日は、六四三二人が犠牲になった阪神・淡路大震災から丸五年である。

新長田駅南側のピフレ広場では「一・一七KOBÉに「灯り」をinながた」の催しが行われている。実行委員長の全美玉（チェ・ミキク）さんは夜中の十二時までローソクの灯を絶やさないように呼び掛けている。竹筒にローソクを入れる準備は鷹取中学校ら地元の中学生在が参加した。

本部テントには「カイロ配布中」の張り紙があり、事務局の長谷部さんは飛び回っている。隣のテントにはくららベーカーの石倉さんがぜんざいと豚汁の炊き出しをしている。

昨年十一月にアスタクにづか1・2番館がオープンし、十二月には三万二千三百四十六戸建設された応急仮設住宅も全て閉鎖された。そして震災時、壊滅した中で救命活動をした西市民病院は春にグランドオープンをする。しかし一方、十三万四千四百六十六人いた人口は未だ十萬七千三百八十人であり、長田の復興は「道半ば」である。

長田に住む人、あるいは長田で働く人々はこの五年間、初めて経験する課題と真剣に向き合ってきた。現地からの検証も必要だ。

震災時、二万人のボランティアを派遣した自治労は四月に長田での防災自治研究集会を予定している。丸五年は折り返し点だ。

手紙をいただきました

まちコミュニケーション

阪神淡路大震災まち支援グループ

菅 磨志保様

(神奈川県)

市川 斉様

(社団法人者シャンティ国際ボランティア会)

渡辺 善弘様

渡辺 豊子様

(東宇和郡)

(財) 生命保険文化研究所附属図書館

西村 公恵様

(読売新聞神戸総局)

高田 喜久子様

(神戸新聞)

瓦版 「なまず」

震災・まちのアーカイブ

月刊 「まち・コミ」

十一・十二月号

阪神淡路大震災まち支援グループ

まち・コミュニケーション

訪ねてこられました

和久井 孝昭様

全日本自治団体労働組合報道出版局

滝田 真様

筑波大学 社会工学系 都市防災研究室

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
近畿部会事務局(京都府立総合資料館)
より「アーカイブセミナー」のご案内をいただきました。『阪神・淡路大震災から5年、災害と記録資料を考える』をテーマに災害と資料保存を考えようとするものです。

寄贈くださいました

優しき街

高橋 明子 著

「地震によって私個人が集積したものを、記憶を、言葉に刻みつけて残したい。そのうちでも、より個人的な体験を書いおくのが、神戸大震災を経験した自分の責務と意気込んだが、一略一記憶とは個人の経験のたまものであるから、私の死とともに無になってしまふことを考えどうしても本にしておきたかった。

二〇〇〇年一月一七日によせて」

本文エピソードより

カンパをいただきました

ボランティアで長楽小学校にいられた東京都新宿区職労・桑島宗利さんからカンパをいただきました。ありがとうございます。

「資料室御中

テレビのニュースで拝見しても、神戸の復興と厳しさが改めてわかる気がします。二〇〇〇年も大変でしょうが情報をお願いします。

末筆ながら皆さんのご健勝を祈ります。」

☆☆☆☆

震災復興 元気の出るミカン

ボランティア団体「夢創造の会」(近畿通商産業局自主研究会)より箱入りミカンをいただきました。

人・街・ながた震災資料室では、震災資料の収集・保存活動を行っております。

ご協力をくださいますようお願いいたします。

「人・街・ながた」 震災資料室展

来場者アンケートから

JR新長田駅南地区震災復興市街地再開
発事業による腕塚町5・6丁目再開発ビル
「アスタくにつか1番館・2番館」が震災
後長い年月を経て平成11年11月22日
に完成しました。

また、同時に大橋地下道として利用してい
た地下広場を整備し「アスタギャラリー」
を開設し、西神戸地区のまちづくり情報等
が展示されています。その一角のショウケ
ース・パネルに「人・街・ながた震災資料
室」の資料、「写真で見る昔の長田」の写
真等を展示しています。

展示場所にアンケート形式の「ご来場者
カード」を置き、見学された方々から記入
していただきました。その内容の一部につ
いて紹介します。

来場者アンケート結果

- ▼期間：11月22日から1月7日
- ▼回収総数：39枚
- ▼回答者内訳（記入している方のみ）

◆展示を見た感想等について…

- ▽あの時を忘れないで永久に保存して下さ
い。（男・47才）
- ▽実際震災を体験したので目を開けて見る
のもつらいです。（女・69才）
- ▽忘れたい、忘れられない日々を思い出し
て涙がこみあげてきました。（女・52才）
- ▽震災の時を思い出し自分でも知らないこ
とがわかってよかったです。（女・17才）
- ▽長田区の今昔を一度に知ることができた。
（男・53才）
- ▽日々他人さまの温かい心に甘えて当たり
前のように貼り紙を見て生活していたが、今
目にするとしんとききます。（女・55才）
- ▽よく残してくれた。（匿名）
- ▽2度とイヤです。（男・47才）

▽復興は目覚ましいが、その影に犠牲者が
あることを忘れないようにしたい（女・69才）
▽だんだんきれくなってきていてうれしい
よ（女・17才）
▽悲しい気持ちです。あんなに賑わっていた
ところが今では静かに思う（女・24才）
▽昔よりずっと便利で文化的になった
（男・47才）
▽まだまだ更地が多い。人が戻っていない
ですか？

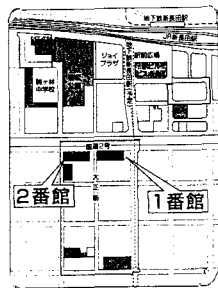
◆展示の中で関心を持ったテーマは何 ですか？

- ▽西市民病院の写真（女・55才）
- ▽救援活動の様子（女・17才）
- ▽救助している写真（女・69才）
- ▽神戸の壁（男・26才）
- ▽復興していく長田の写真（男・60才）
- ▽震災復興の具体的な例が展示されていた
点（男・53才）
- ▽源平勇者・源平道（匿名）
- ▽大正筋の移り変わり（女・59才）
- ▽変わりゆく街の風景（女・52才）
- ▽地図・地下鉄（女・16才）
- ▽イカ焼き等のポスター（匿名）

ます。まだ心から笑えないように思います。

- ▽支え合いがいっぱいある（女・16才）
- ▽少しずつではありますが復興していると
思います（女・17才）
- ▽人とはお互い支えあうものよくぞいま
で復興した（男・47才）
- ▽出来ている所もありますが、出来ていな
い所も自ら進んで人を支えていけたらいいと
思います（男・47才）
- ▽長田らしくいい感じです（男・28才）
- ▽ずっとできないと思う（匿名）
- ▽力をあわせてがんばって（女・63才）
- ▽アスタの意味を知ることができたが、お
しゃれで素敵なネーミングだと思います。
その心をもつと神戸市民にアピールして欲し
い（男・53才）
- ▽ぎすぎすしている人もいる。よい人は引
越された（匿名）

アスタくにつか
地図



▼回答者の年令

年令	男	女	計
20才未満	1	5	6
20～39才	2	1	3
40～59才	5	4	9
60才以上	2	2	4
計	10	12	22

▼回答者の住所

現住所	被災時の住所	計
長田区	6 長田区	9
神戸市内	5 神戸市内	4
神戸市外	4 神戸市外	2
計	15 計	15

アスタギャラリー

『阪神大震災5周年・「鎮魂」西神戸地区
の震災の表情』写真展が開催されています。
カメラマン川井聡氏の提供写真6854枚
のうち1034枚が展示されています。
展示期間：1月8日～1月30日まで
各コーナーには、テーマ毎の表情という形
式で写真が整理されまとめて展示されてい
ます。

「1. 震災直後、2. 家屋破壊、道路
3. 家屋傾斜、壁、焼跡、自衛隊4. 街角、
看板、屋根 5. ビル倒壊、笑顔、子供
6. ボランティア、ペット等」の表情・
その他遠景、商店街、仮設屋台、鉄筋、線
路、片付け、救援物資、車、解体、集団、
復旧、見物者、仮設店舗、港湾」等に分類
されているので、写真でその表情が浮き彫
りにされ見やすくなっています。

◆長田の街の復興について感想…

- ▽元の街に戻るのにはまだまだ時間と景気
の回復が必要です（女・55才）
- ▽少しずつではありますが復興していると
思います（女・17才）
- ▽大分落ち着いてきたと思う（女・16才）
- ▽10年昔の長田の方がいい（男・28才）
- ▽以前住んでいたので久しぶりに来てよかつ
た（女・59才）
- ◆「ここ（人）と人が支えあう気持ち」
の復興について…
- ▽今もどこかで気にして言葉を選んで喋り